

【事業所名】 さの指定居宅介護支援事業所

I 事業の年間報告

事業の概要	自己評価	年間の取組と評価	取り組むべき課題
1 利用者への取組			
(1)人権尊重の徹底	A	① 7月 虐待の芽チェックシート実施、 7・9月虐待防止研修全職員受講済み 9月 東部ブロック研修(高齢者虐待通報) 11月 東京都保健福祉財団 高齢者虐待防止研修 R7 3月 居宅支援部会 虐待の一連の流れとその後の包括居宅の連携を知る 管理者研修にて所内通知済み ② 虐待防止委員会9回開催。居宅所内にて情報共有している。	① 事業所としての所内研修は継続して行っていく。 外部研修への積極的な参加に取り組む ② 対人援助職としてアンガーマネジメントをコントロールできるような研修を検討する。
(2)苦情解決・相談体制の整備	A	① 利用者・家族、他の事業所からの苦情連絡はなかった。	① 苦情があった場合は、迅速に丁寧な対応を行っていく。
(3)事故防止対策	B	① 書庫の鍵を閉め忘れ退勤したことがあった。全員で再確認する。	② 個人情報の流出ないよう徹底する。 個人情報流出などあった場合、事業所としてのリスク管理について、研修を通して全職員に周知していく。
(4)サービスの質の確保	A	① 7月に第三者評価受審	① 接遇(コミュニケーションスキル)に関する研修を計画する。 ② 職員の能力向上と困難ケースに対応できる人材育成のためのスーパービジョンが課題 ③ 人材育成に向けた取り組みを行なっていく。
2 職員への取組			
(1)人材の確保・育成・定着	C	① 新任ケアマネの育成に取り組んだが、目標を達成するには至らなかった。	① 中期(5年後)の居宅支援事業所を見据えて職員の採用を検討。 ② 新任職員の育成ができる体制の整備が必要。
(2)職場環境づくり	A	① 自己申告書作成、 事業所長と面談を実施。職員個々の自己申告書について進捗状況を確認し年度末に向けての目標を再確認した。	① 申告書作成後の面談については、居宅管理者との面談。さらに事業所長との面談など、職員の意見を聞く機会を検討していく。
3 地域社会への取組			
(1)地域貢献	A	① 絆のあんしんネットワークへ職員全員参加することができた。	① 継続した参加を行い、地域住民との信頼関係を築き深めていく。
4 経営基盤強化への取組			
(1)収入増への取組	A	① 主任介護支援専門員2名体制で特定事業所加算Ⅱを継続している。 居宅支援エリアを前期に拡大したが、後期も拡大している。同建物内の包括支援センターからの困難ケースの依頼を受けている。 入院時情報連携、退院・退所加算など積極的に取得している。	① ケアマネ担当件数は、予防3人1人換算で、39件を実施していく。
(2)コスト削減への取組	A	① 事業所内通知はラインワークスの無料通話を使用継続。	① コスト削減を意識した業務を継続して心掛けていく。
(3)法人全体の財政基盤の強化	B	① 統括事業所内の各事業所の稼働率向上に繋げられる情報共有会議に参加。	① 地域のお他サービス情報を居宅所内で周知し、他部署に情報提供できる会議への参加を継続する。時代の流れに合わせたニーズの把握に努める

(4)組織・システム	B	① 2025年4月開始予定のNIコラボ(グループウェア)の事前シミュレーションを行った。	① NIコラボやノーマン(AI 議事録)の機能を活用し、ペーパーレスや職員間の情報共有、業務を効率化できるよう全職員が操作できるようにしていく。
(5)災害・感染症対応	B	① 施設内で BCP 訓練を実施。施設の備品置き場・貯水タンクの場所の確認、スプリンクラーの操作方を学んだ。	① 実働に基づいたBCPを確認・検討し、ブラッシュアップしていく。
(6)危機管理	B	① YouTube や SNS などを利用して医療介護サービスの情報を収集している団塊の世代が多くなっているため、就労と介護を両立する支援策についてケアマネや事業所に対して過剰な要求が多くなっている。	① カスタマーハラスメント研修を検討、カスタマーハラスメント対策を強化していく。